

下田市水道ビジョン及び水道事業経営戦略 2025(案)
パブリックコメントの実施結果について

下田市水道ビジョン及び水道事業経営戦略 2025(案)についてのパブリックコメントの実施結果について、以下のとおり御報告します。

1 ご意見等の募集期間

令和 7 年 3 月 10 日(月)～令和 7 年 4 月 8 日(火)

2 受理総数

持参	郵送	FAX	電子メール	合計
0	3	0	4	7

3 寄せられたご意見と、ご意見に対する市の考え方

番号	ご意見等の内容	市の考え方
1	第 6 次拡張事業における横川地区の方針を明確にすべきと考える。その為には、まず拡張事業計画に基づき、横川地区へ水道施設を整備する場合の事業規模（期間・予算額）を示し、その場合の財政計画と料金改定を試算する。人口減少下における同地区への水道施設整備については、水道未普及地域の解消において「未定」とするだけでなく、持続可能な水道事業運営を市民が理解し判断するためにも、数値を用いた問題提起が必要である。	平成 10 年の第 6 次拡張から平成 20 年に拡張工事の軽微な変更を行い、給水区域外に給水の要望があった地区及び現在末端より個人で延長して給水している地区が拡張されました。横川地区は現状の圧力で送れる箇所に布設を計画し、約 15 戸で現施設の水圧で届く箇所までを拡張区域としたため、管路延長については未定としております。
2	敷根系・武山系（浜崎）の過剰総容量に対する、集約化・減量化の方針を示す必要がある。	敷根系は、下田配水池の容量が過剰となるため、下田配水池の見直しを計画しております朝日系は、相ノ山と鍋田を集約して鍋田配水池を廃止します。（女郎山にある配水池 3 池を 1 池に集約する予定がありますが、5 年後以降になる予定であるため 5 年後の経営戦略で示す予定です。）

3	既に、下田・武山配水池機能を集約する新武山配水池を整備していると認識するが、下田・武山配水池を単独で更新する方針展開の詳細と、集約と単独の場合でコスト等の比較を示す必要がある。	集約し、下田配水池はダウンサイジングの計画となっているのは、1箇所を集約した場合のリスクを分散したもので、武山配水池(1,400 m ³)と下田配水池(5,000 m ³)で6,400 m ³ を新武山配水池(2,000 m ³)と新下田配水池(2,500 m ³)で4,500 m ³ としております。
4	前回同様に、施設整備計画図の作成と掲出をお願いします。	施設計画図作成しお示しします。
5	水道料金の水準は、1世帯当たりの一般的な水道使用量で全国平均と比較して666円安くなっています。だが○静岡県内においては下記の通りで、水道料金は高い 静岡県内の水道料金ランキング(高い順)平成27年 下田市5位 熱海市6位 伊東市8位 沼津市22位 三島市24位	水道料金の設定には、人口密度や水源及び給水地区への高低差も関係がありますので、地区により差があります。静岡県は水量が豊富な湧き水が多いため全国より安い水道料金となりますが、下田市では河川の水を使用しており、その他の条件もあり良くないため、静岡県の平均より水道料金が高くなる傾向になります。
6	取水施設には非常用電源設備が必要だが、1箇所しか設置されていない。(強靱化、BCPからも非常用発電機は特に重要) 河内系河内地区 1 400 590 で▲190 m ³ の容量不足	取水施設は2箇所ありますが、発電機が設置してある長瀬取水場(取水量19,200 m ³ /日)で、落合浄水場に送水する電力が使用できます。 もう1箇所の取水施設の河内水源(1,440 m ³ /日)にも電源が必要ですが、必要に応じて移動式の発電機を設置します。配水池の容量は、一日の使用量の12時間分が目安に設定されているため配水池の容量としては問題ありません。
7	河内庁舎の敷地内にFRP製2槽式、有効容量200 m ³ 程度の配水池の新設が必要。(大雨、地震災害対策が必要)	貴重なご意見として、庁内で検討させていただきます。